

新庄市議会 行政視察報告書

会派又は議員名 起新の会

【全体的事項】

1. 視察日程 平成 29 年 1 月 20 日（金）～21 日（土）
2. 調査事項（視察先）
 - （1）経営所得安定対策及び農業再生協議会への支援について（農林水産省）
 - （2）新庄ふるさと応援隊の新年交流会（東京都）
3. 視察参加議員（議席順）
石川正志 小嶋富弥 佐藤義一（代表）

【具体的事項】

調査事項（1）

「平成 30 年以降の経営所得安定対策と農業再生協議会への国の支援について」
（農林水産省）

（視察事項）

説明者：農林水産省経営安定対策室 経営専門官 水田陽介氏

地元農業者、JA 等農業団体の要望を基に、新庄市農林課と協議した上で農林水産省への要望点をまとめ以下の 3 項目について意見交換した。

○平成 29 年度水田活用の直接支払交付金について

政府案によれば、「水田のフル活用を推進し食糧自給率向上を図るため飼料米、麦、大豆等の生産者に直接交付する。」としているが、戦略作物助成（飼料米等）の単価は維持されたものの、産地交付金については、加工用米複数年契約の新規契約分の助成が見送られたことや水田機能を失っている農地を対象から除外すること、野菜など従来枠・産地戦略枠の 2 割保留など、安定した農業経営を揺るがす事態となっており、農業経営者の困惑と疑念が広がる恐れがあります。

更に平成 30 年以降に飼料用米の標準単収の引き上げとなれば、単収向上にも限界があるため、コスト削減より収入の減少が大きくなり、需給調整のインセンティブを失う可能性が大きいと考えられます。

つきましては、水田活用の直接支払交付金単価の堅持を要望いたします。

○米政策の転換における恒久的な支援制度について

米の直接支払交付金については平成29年産米で終了とのことですが、米価安定や稲作農家の経営維持、主食用米の安定供給のために、新たな支援策が必要と痛感しております。米政策の転換では、大規模な稲作農家ほど多大な影響を受けることになり、需給バランスの崩壊とともに米価が下落すれば、稲作農家の経営を直撃し、さらに地方の地域経済に大きな影響を及ぼすことは必至と思われまます。需給バランスを確立するための恒久的支援制度を構築し、担い手の不安の解消を図るよう要望いたします。

○新規就農者への支援について

農業次世代人材投資事業（旧青年就農給付金事業）において、経営開始型の主な交付要件では、「親からの経営継承や親の経営から独立した経営部門を行う場合も対象」とされているが、経営継承のみの場合の給付が難しくなっている実態にあると把握しています。親からの経営継承を基礎に新規就農者として就農し、後の新たな感覚により農業経営を行い、地域農業が支えられることを鑑み、経営継承者への交付拡大を要望いたします。

■視察日時 平成29年 1月20日（金）
午後 1時00分 ～ 2時30分

■所 感

新庄市の基幹産業として位置付けられている農業ですが、近年ニラ、ねぎ等園芸作物の産地化が進んでいるものの、主食用米をはじめ土地利用型農業が大半を占めている実情があります。周知のように国による主食用米の都道府県への配分が平成30年から実施されないことを踏まえ、生産現場での不安が増してきております。この度は、上記に示したよう主食用米の生産調整機能に大きな役割を果たしてきた「経営所得安定対策」及び「農業再生協議会」について調査を行いました。担当者との話し合いの中で感じた最も大きな点は、財務省主導（国民から税の使い方に理解が得られるか？）の農林予算が、生産現場の思惑と若干の相違があることです。農業政策に関しては、農産物の価格維持に係る補助から農家収入への保険制度への移行が大きな流れとしてであると捉えられますが、急速な移行は、単に生産現場の混乱を招くだけでなく、地方経済への影響が大きいと考えられるからです。



後日、上記要望点について文書で回答を頂く運びになっておりますが、予算の額、

農家への交付など新庄市に与える影響を注視するとともに、関係機関との議論を活発にしていきたいと思えます。

調査事項（２）

新庄ふるさと応援隊の新年交流会（東京都）

（視察事項）

○第４回新庄ふるさと応援隊新年交流会に参加し、意見交換を行った。

■視察日時 平成２９年 １月２１日（土）
午後 １２時３０分 ～ １５時００分

■所 感

今年度で４回を数えるふるさと応援隊の新年交流会には、新庄市からの参加者を含め約１７０人規模の開催となりました。新庄市に企業展開している経営者を初め、新庄市出身で首都圏在住の方、更にはふるさと納税をきっかけに会員とされている方と伺いました。

今年度、新庄祭りがユネスコの無形文化遺産登録もあり、泉田囃子若連の皆さんが祭囃子出演、また、ふるさと新庄の郷土料理が振る舞われるなど多くの参加者が歓喜に包まれ盛大な開催になったと捉えています。主に地元出身の方々の意見交換となりましたが、首都圏で活躍され第一線を退かれた方、今も現役の方が新庄市に何を求めているのか、あるいは、人口減少社会に対応し、ふるさと新庄が存続するためどうすべきか、沢山の話を頂戴しました。

いつも新庄のことを大切に思っていることにあらためて感謝いたします。

（文責 石川正志）